

東京大学生産技術研究所での勉強会で社長、常務がプレゼンテーション

2019年4月24日

セリングビジョン株式会社

当社は本年3月に発足した東京大学生産技術研究所 荻本研究室（荻本和彦特任教授；エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門）主催の iCharge！勉強会に参加して、関係専門家の顔合わせ会議（3月28日に東大生産技術研究所にて開催）では里見常務が「EV 充電の内外関連市場動向」を、また第1回会議（4月24日に上記場所で開催）では岡部社長が「福島復興事業、特に浜通りの実証フィールドとビジネス特性」をそれぞれプレゼンテーションいたしました。

iCharge！勉強会とは、電力 Utility3.0 時代<注1>において電気自動車（EV）が分散電源として果たす役割にスポットライトをあてて、需要家設置が進む太陽光発電などの再生可能エネルギーにおいて系統側制限により出力抑制せざるを得ない余剰電力を、今後普及する EV 用の充電に有効利用できないか、ユースケース、サービス、ビジネスモデル、充電設備、制度・仕組みを検討し、福島復興事業との連携も念頭に、実証を実施する環境も検討することでエネルギーシステムとモバイルサービス（MaaS、CASE<注2>）の融合を、関連する様々な企業が集まって検討して、今後の進むべき方向を提言することを目的としております。

当社は本勉強会に今後も積極的に参加して、荻本先生をはじめとする東京大学の先生方や、本分野に詳しい企業関係者のお話を伺いながら、今後の産業界でのデジタルトランスフォーメーションの進展の中で電気と ICT・IoT の融合による新たなビジネスモデルの発掘や福島復興の貢献に繋がれば幸いです。

<注1> Utility3.0 とは、従来の垂直統合型の電気事業を Utility1.0、そして発電電分離と電力市場の自由化に対応する Utility2.0 としたら、その後 2050 年頃に来るであろうエネルギー産業の構造変革を迎える社会インフラのことを表わします。

<注2> MaaS（Mobility as a Service）とは、将来の移動の概念を、従来の乗物中心の考え方から、サービス中心の考え方に変わることを意味します。CASE（Connected, Autonomous, Shared and Services, Electric）とは自動車業界の変革をもたらすキーワードで、ネット接続、自動運転、シェア・サービス、電動化を表わします。自動車メーカーが将来、モビリティサービスプロバイダーに変わるであろう方向性を示唆しています。

（本件問い合わせ先； 里見 TEL 03-5251-3101）

以上